

白布ヶ丘だより

9月

…学校と家庭・地域の架け橋…

発行 栃木県立真岡高等学校

〒321-4331 栃木県真岡市白布ヶ丘24番地1
TEL 0285-82-3413 FAX 0285-82-2913

猛暑の続いた長い夏休みが終了し、2学期がスタートしました。最近では、朝夕の涼しさを感じるようにもなりました。9月は一日の気温差が大きい時期ですので、健康管理には十分ご注意ください。さて、2学期は、学習するにも部活動をするにも快適な季節です。文武両道を実践する真高生にとっては大いに活躍が期待される季節です。充実した学期となることを期待しています。

新型インフルエンザにご注意を！ ～「秋の大流行」に備えて～

全国的に、学校が本格的に始まる9月1日以降、新型インフルエンザの感染がさらに広がる危険性が高まり、その流行が懸念されています。

過日、厚労省より発表された「流行シナリオ」によると、国民の2割が感染するとした場合、ピーク時には1日約76万人が発症し、約4万6400人が入院すると推計されるそうです。また、流行のピークは10月上旬と予想されています。

栃木県では、新型インフルエンザ対策として、以下のようなことを呼びかけています。

- こまめに「手洗い」「うがい」をしましょう。
特に外から帰宅した時は、忘れずに実践を
(1)正しい「手洗い」の仕方
①手のひらをあわせ、力強く5秒間
②手の甲を伸ばすように、右も左も5秒間
③指先、爪の間もしっかりと渦を描くように5秒間
④指の間も十分によくこすりあわせて5秒間
⑤親指を手のひらでねじり洗い、5秒間
⑥手首も忘れず5秒間
(2)手を洗った後は
洗った手が水にぬれたままだと、ウイルスや細菌が手にくっつきやすい状態になります。
きちんと手を拭きましょう。
汚染されたタオルを共用すると、タオルが感染源となって感染が拡大することがあります。
タオルは、常に清潔にしておきましょう。
 - 外出するときはマスクを着け、人ごみをさげましょう。
 - 部屋の換気や加湿を心がけましょう。
 - 普段から十分な睡眠、栄養をとり、規則正しい生活を送りましょう。
 - インフルエンザを他の人にうつさないため、「せきエチケット」を守りましょう
- ※せきエチケットとは
- せきやくしゃみなどの症状がある方は必ずマスクをする。
 - マスクがないときは、ハンカチやティッシュなどで口や鼻を押さえ、ウイルスの飛散を防ぐ。
 - 使用したティッシュなどは、ふた付きのゴミ箱に捨てる。
 - 鼻水などが付いた手は、きちんと洗う。

9月の行事予定

- 1日(火) 始業式、生徒会役員任命式、野澤賞授与式、1・2年課題テスト
2日(水) 生徒会役員研修会
3日(木) ※月曜日の授業実施
4日(金) ※火曜日の授業実施

年間を通して各曜日の授業時間が平均化するよう調整するため、3日(木)は月曜日の時間割で、4日(金)は火曜日の時間割で授業を行います。

- 7日(月) 献血
9日(水) 高文連音楽祭(宇都宮市文化会館)
10日(木) 第3回進路希望調査
自転車安全点検
センター試験出願事前指導
12日(土) サタデーセミナー(1・2年)
14日(月)～15日(火) 第3回校内模試
16日(水) 面接強化週間(～9/28)
19日(土) 進研マーク模試(3年)
駿台全国模試(2年、希望者対象)
21日(月) 敬老の日
22日(火) 国民の祝日
23日(水) 秋分の日
25日(水) 第31回合唱コンクール
(真岡市民会館大ホール)

合唱コンクールについて

現在、保護者の方に入場のご案内を差し上げています。この機会に是非、男声合唱の素晴らしさをお楽しみ頂ければと存じます。

さて、当日は12時10分開場となります。時間厳守でお願いいたします。

また、今年は保護者席を250席に増やしましたが、例年希望者が多く、入場をお断りする場合もございます。申し訳ありませんが、予めご了承ください。入場を希望される場合は、なるべく早めにお申し込みください。

なお、ホール内での写真・VTR撮影は禁止されていますが、ご子息の出演時に限り撮影許可書を発行しています。希望される方は、ご子息を通して係までご連絡ください。

- 30日(水) 2年中間テスト(～10月2日)

「一日体験学習」が開催される

中学生を対象とした「一日体験学習」が、8月21日(金)に開催されました。

今年は県内外の中学校42校から昨年より68名多い、398名の生徒の参加がありました。

当日は校長先生のあいさつの後、それぞれの担当職員から資料を用いて、本校の概要や学習・進路に関する説明があり、参加した中学生や保護者・教員は真剣に聞き入っていました。

続いて、本校生徒会によるプロジェクターを用いての部活動等の高校生活の紹介がありました。

その後、係生徒の案内で校舎内や記念館の見学が行われました。特に、記念館では歴史と伝統を感じていたようでした。

また、応援団やジャグリング同好会の歓迎の演技も行われ、参加者は大変楽しそうに見学していました。

参加者(中学生)へのアンケート結果

1. 参加の動機は

- | | |
|--------------|-------|
| ①自分の意志で | 87.9% |
| ②先生に勧められて | 1.3% |
| ③親や親戚等に勧められて | 5.8% |
| ④友達に相談して | 2.0% |
| ⑤何となく参加した | 2.3% |
| ⑥その他 | 0.8% |

2. 学校や学科の内容はよく理解できましたか

- | | |
|--------------|-------|
| ①よく理解できた | 55.8% |
| ②だいたい理解できた | 31.9% |
| ③あまり理解できなかった | 1.0% |

3. 全体として

- | | |
|---------------|-------|
| ①大変参考になった | 84.9% |
| ②少し参考になった | 14.1% |
| ③あまり参考にならなかった | 1.0% |

応援有り難う

ございました。

夏季休業中は、数々の部活動の活躍がありました。特に、全国大会等で活躍した部の結果をお知らせいたします。

○8月2日(日)から奈良県五條市上野公園多目的グラウンド等で行われたインターハイでサッカー部は、1回戦で羽黒高校(山形県)に3対2で勝ちましたが、2回戦で佐賀東高校(佐賀県)に2対3で惜敗しました。なお、佐賀東高校は、この大会で3位の成績を収めました。

○8月5日(水)から奈良県明日香村で行われたインターハイでソフトテニス部は、1回戦で塩田工業高校(佐賀県)に2対1で勝ちましたが、2回戦で前年度の優勝校で地元奈良県の高田商業高校に敗れました。

○7月21日(火)から東京で開催された第56回NHK杯全国高校放送コンテストのアナウンス部門に、放送委員会2年の小森真介君が出場し、見事準決勝に進出しました。

NHK杯全国大会に参加して

放送委員会

7月21日(火)から24日(金)まで、東京都渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年総合センター及びNHKホールで開催された第56回NHK杯全国高校放送コンテスト(以下Nコン)において、小森真介君がアナウンス部門で入選を果たしました。真岡高校放送委員会では、初の全国大会入賞となります。

Nコンは放送の甲子園とも言うべきもので、全国の放送部が出場を目指す国内最大規模の放送コンテスト。第56回大会には全国から1,561校、14,016人の生徒が参加し、日頃の練習の成果を発表しました。真岡高校からはアナウンス部門と創作ラジオドラマ部門にエントリーしていました。

小森君は、「数多くの放送部を退け、初の全国大会出場で入賞できたことは大変喜ばしいことです。決勝には残れず悔いの残るものとなってしまいました。来年度も出場目指して努力し、そのときにはもっと上の賞をいただけるよう頑張りたく思います。放送委員会は大会出場メンバーが少ないので、アナウンス、朗読に挑戦してみたいという人がいたらぜひ声をかけて下さい。」と話しています。また、残念ながら準々決勝敗退に終わった創作ラジオドラマ部門についても、「来年度は、いつも通りの『笑い』を誘いつつテーマ性のあるものを作りたい。また、今まで挑戦してこなかった映像部門にも出品したい」と意気込みを語っていました。

～インターハイを振り返って～

ソフトテニス部

私たちは8月5日(水)～8月8日(土)まで、奈良県明日香村で行われたインターハイで、栃木県代表として闘ってきました。

各都道府県の予選を勝ち抜いてきた選手ばかりなので、どこのコートをもてもうまい人ばかりでした。

6、7日は個人戦で、私は4回戦まで進むことができました。日頃のメンタルトレーニングの成果もあって、平常心で試合に臨め、自分たちのペアでやりたいことをできていました。

4回戦では北海道尚志学園と試合をしました。相手は第一シードということで、楽しくやろうと思い、試合をしてみたら、ほんの少しの差で敗れました。ほとんど悔いはなかったけれど、今思うと勝ちたかったです。

8日は団体戦で、1回戦は名門佐賀県塩田工業高校と対戦しました。1ポイント1ポイントが、かなり重みを感じた試合ばかりで、結果は2-1で勝ちました。2回戦は前年度優勝校の大和高田市立高田商業高校と対戦しました。

この試合も皆で楽しく全力を出し切ろうと思い試合をしました。相手校はやはりどのペアも強く、結果は0-3で敗れましたが、自分たちの力をすべて出し切ることができました。

この3年間私たちを支えて下さった、先生、友人、家族の方々のお陰で、最高の夏で引退することができました。本当に感謝しています。来年もまた、後輩たちがインターハイに出場して頑張ってくれると思います。ありがとうございました。